

草勢強く、うどんこ病に強い、強粉質で食味が良く、貯蔵・輸送性が高い
2番果まで形質が安定した高品質種

イーテイ

特性と栽培方法



第1図 標準作型

地域	月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
九州 (西南暖地)	播種		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
関東 西海 関東 東平 坦地	播種			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高冷地 東北 北海道	播種					○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植					●	●	●	●	●	●	●	●	●

○播種 ●定植 ●交配 ○収穫

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 TEL.047-387-3827 FAX.047-386-1455

イーテイ

〈特性と栽培方法〉

育成経過

みやこに次ぐ品種として、さらに食味が良く粉質度高い高品質を目標とし、特に食味に重点をおいて改良した品種で、1993年に命名発表した。
育成素材としては、栃木県在来種から選抜した強粉質で貯蔵性が高い系統と、みやこの固定系でさらに粉質度高い系統を使い、育成した。

品種特性

- 果実は暖高のやや尻が尖がる中果(1.8~2.5kg)で、果摘いがよい。
- 果皮は黒緑色で、斑・ストライプはあまりめだたない。
- 果肉は濃黄色、強粉質で食味が良く、長期貯蔵しても品質は変わらない。
- 草勢は極めて強く、大葉で葉柄・節間は長く、茎は太い。
- うどんこ病に強く生育後半まで草勢が衰えないので、2番果も品質・果形は安定している。
- 吸肥力が強いので元肥は少なめにし、追肥で調節する。
- 低節位着果は小果になるので、1番果は18節前後に着果させる。
- 収穫適期は開花後45日前後である。35日で粉質になるが、カボチャ本来のうまみに欠ける。本種は高品質を最大の特長としているので、収穫適期を厳守する。

栽培の要点

■播種 発芽床は過湿にならないように注意する。覆土は1cmくらいで、強めに鎮圧する。発芽適温は25~28℃、発芽したら20℃とし、翌日さらに15℃にする。(第2図参照)

■育苗・定植 播種後7~8日目にポット(12cm)に鉢上げする。育苗床はあらかじめ用意し、散水して床温を20℃くらいに上げておく。2~3日で活着したら地温は夜10~12℃、気温は昼18~20℃、夜8~10℃を目標に管理する。

育苗中の高温多湿は雌花の着生を少なくし苗の質を悪くするので、上記のような低温で管理し、灌水も控え目にして硬い苗を作る。育苗日数は30日前後がよい。

定植は、深さ20cmの地温が最低15~18℃に上昇するのを待って行う。

■交配・着果 交配はトンネル内の早い時期は人工交配とし、午前10時前には終わるようにする。ホルモン着果は行わない。

低節位の雌花は少ないので摘果の必要はほとんどないが、低節位に着果すると小果になるので、1番果は18節前後に着果させる。

草勢が生育後半まで衰えないので、2番果以降も品質・果形は良く揃い、粗放栽培でも特性を発揮する。

■収穫 開花後45日で風味ある強粉質となり、過熟になっても品質の低下は少ない。しかし、若穫りすると果実特性が発揮できないので、若穫りは絶対に行わない。

収穫後の日持ちが良く、貯蔵輸送性に富む。

■病害虫対策 うどんこ病に強い。従来品種と比べて発病時期が遅く病状も軽いので、通常1番果の収穫時期まで防除の必要はないが、病状が進み被害が予想されたり、2番果まで収穫する場合には、防除が必要となる。しかし、うどんこ病に対する防除回数は、従来品種に比べて半減できる。

えき病やアブラムシ等の病害虫の子防・防除は、他品種と同様の対応が必要である。

N8~12kg
P15~20kg
K10~15kg
Ca50~60kg
完熟堆肥2t

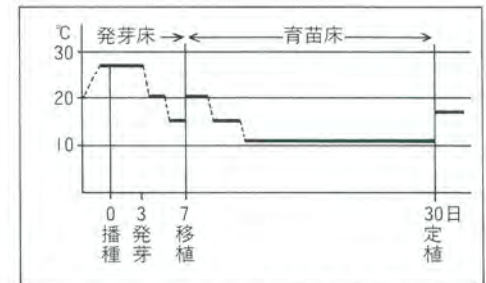
■標準施肥量(成分kg/10a)

吸肥力が強く、草勢が強いので、元肥はやや少なめにし、1番果の着果を確認したところで草勢を見ながら追肥を施すようにする。

■栽植本数 大葉で葉柄・節間が長いので、下記を基準とする。(10a当たり)

1本仕立て 畦間 3.0m 株間 40cm 830株
2本仕立て 畦間 3.0m 株間 80cm 415株

■整枝 側枝は初期から強く発生し過繁茂になりやすいので、1番果が着果するまではいねいに随時摘除する。着果後は放任でよい。



第2図 発芽床と育苗床の床温管理(夜間最低床温)